

学び、育てよう “ 沖縄のこころ ”

— 総合的な学習を通して —

奈良市立春日中学校

教諭 中原恭輔

教諭 中嶋昭夫

1. はじめに	2
2. 修学旅行について	2
3. 本校修学旅行委員会の取り組み	2
4. 総合的な学習と修学旅行	2
5. 1年生の取り組みから	5
6. 2年生の取り組みから	8
7. 3年修学旅行	10
8. 終わりに、課題、考察	23



1. はじめに

本校は昭和22年4月、奈良市に新制中学校として創立された学校のひとつである。奈良市の中心部に位置し、店舗も多く、住宅商業地域として発展してきた。地域には三つの小学校があり、校区を中心にしたふれあい活動も盛んで、地域の人たちの学校に対する期待は大きく、互いに連携を取りながら、子供の健全育成に向けた連絡会が地域ぐるみで組織され、活発に活動している。

現在19学級、生徒数は698名である。別棟に夜間学級も6学級134名が在籍している。開校以来、人権尊重の精神を基盤に、個性豊かな人間形成をめざす教育が営まれている。新学習指導要領の実施に伴い、生徒の特性等に応じた多様な学習に重点をおく選択履修幅の拡大に精力的に取り組んでいる。また、生徒の自主性を伸ばすために、生徒達による自主活動にも力を入れている。

2. 修学旅行について

昨年9月11日に世界同時多発テロがアメリカで勃発し、航空機利用による修学旅行について、各学校は検討思案の末、目的地変更の結論を出した学校も少なくはなかった。反戦平和の学習に取り組んでいる学校が多いため、沖縄方面を予定していた学校がほとんど取りやめ、一般観光客も当初の3分の1に落ち込む結果と報じられた。11月4日には沖縄振興会議が開催され、沖縄観光振興宣言の採択により、沖縄観光についての観光振興が打ち出された。一時期慎重にならざるを得なかったが、その後世情も落ち着き、テロの脅威はまだ冷めやらぬが、政府文部科学省、国土交通省の見解、市教育委員会の指導、保護者や、生徒達の希望など、安全性を図りつつ、本校も今年5月末に実施し、学習の成果や数々の思い出を持ち帰ることができた。

修学旅行のねらいはいろいろ考えられるが、中学3年間のまとめとして行う修学旅行の行き先は沖縄において他に考えられないと思っている。小学校で広島を学び、中学校では道徳で反戦平和を学ぶ中で、沖縄の現地戦について、多くの資料や生き残り証人の方たちの尊い話が学習の好材料となろう。また、沖縄の自然や文化に触れ、学ぶことに大きな意義を感じて取り組みを進めてきた。

本校においては、沖縄修学旅行は今年で6回目になる。今年からは新教育課程の導入と重なり、学校行事の精選、授業時間数の確保など制約されることが多い中、学校で学んだことを体験して深め、体験で得た物を生涯学習（生きる力）に生かそうとこれまでの取り組みを生かしながら、総合的な学習に組み入れていこうと考えたのである。

3. 本校修学旅行委員会の取り組み

学校長、教頭、教務主任、各学年修学旅行、校外学習担当による修学旅行検討委員会の大きな役割として、毎年各学年行事（修学旅行、校外学習、野外活動）の集約と検討、さらに3年間を1スパンとして、修学旅行先を検討することである。学校が意図する修学旅行のねらいや時代の変遷、生徒・保護者の希望などを考慮して、3年毎に目的地の変更可否かを決定して来た。

振り返れば、信州方面→ディズニーランドを主としてその周辺地域（河口湖、鎌倉）→沖縄と実施されてきた。沖縄は、1997年度より3期9年実施の計画である。

4. 総合的な学習と修学旅行

《特別活動と総合的な学習の時間の組み立て》

私達はこれまで、修学旅行の日程説明からきまりや持ち物、班分けと旅行が始まる前から終わるまで特別活動の時間等を利用して、いわゆる事前・事後指導をやってきたといっても過言ではない。修学旅行は無事にしか

も思い出多い学習を求められるからだ。その分時間のやりくりにも苦勞を強いられる。

週5日制になり、教育課程も改定され、時間数の制限が求められる。特別活動の時間と総合的な学習の時間を有機的に組み合わせるべきだと考えてきた。なぜなら、両者の共通となる所は、体験的・実践的な学校教育活動であることである。それぞれの固有性は、森島昭伸氏（国立教育政策研究所）のまとめを引用すると、

特別活動

総合的な学習

人間関係を広げ、生き方を探求すること → 学びを広げ、学びの世界を探求すること
問題解決的な活動（豊かな学校生活形成） → 問題解決的な学習（多彩な内容・方法）
集团的・社会的な活動（自他のかかわり） → 個性的・協同的学習（多様な学習形態）
☆自己実現、社会的自立を推進する力 ☆自己学習、生涯学習を推進する力

と、いうことになる。したがって、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることであり、又、学び方やものの考え方を身につけ、問題解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度の育成を図るとともに、自己の生き方について自覚を深めることである。

以上の理論をもとに、今年度3年修学旅行を中心に取り組みを進めてきた。

沖縄修学旅行は学校教師側が主となって決定や指導すること、学年生徒会が中心となって運営すること、そして、タクシーによる班別活動等という形をとり、グループが疑問や調べたいことについて、興味を持って活動できるようにした。タクシー運転手さんの案内やふれあいはじめ、体験活動では、地域の人々やその専門家に直接関わり学習することができるメリットがある。事後学習では、調べたことを壁新聞や学年発表会で発表する事にした。さらに文化祭においては、学年総合学習の沖縄修学旅行のまとめとして、劇や音楽にも発展した取り組みとなった。

※ 「総合的な学習の時間」の中に、人権の視点をどのように位置付けていくか

本校の目指す生徒像の中に、自他を大切にする生徒というのがある。教育方針の中にも、豊かな人間性を育み、個を生かし、ともに生きるなかまづくりをすすめるというのがある。日々の教育活動において、私達がどれほど意識できているのか、絶えず確認していかなければならない。

部落差別や障害者差別を始め、あらゆる差別にたいして「おかしいことはおかしい。間違っていることは間違っている。」ということを教師自らがアンテナをしっかりと張って、様々なしんどさを背負わされた生徒たちと、様々な場面でしっかり向き合っていかなければならない。

今年度の総合的な学習については、1年生で福祉体験学習、2年生で職場体験学習を学年のテーマとして、仕事についての基礎知識や働くことについて調べ学習をしてきた。また、事前学習として、事業所から、ゲストティーチャーに来ていただき、予備知識を得たり、職場の雰囲気を知ることでもできた。これまで学級単位で取り組んできた学習が、グループとなってくると様々な問題が出てくる。よほど普段から生徒をしっかりと見つめ、把握していけないとかなり厳しいものがある。教師と生徒との関わりを大切にして、生徒たちが心も体も解放でき、自分を表現できるようになるために、生徒の生活をしっかりと見つめ、どのようなかすかなつぶやきも大切に教職員の感性が不可欠である。人の思いを分かろうとすることが他者の権利に関心を持つ出発点である。子供たちの願いを受け止め、単なる心掛けの指導になるのではなく、自分との関わりの中で生き方につながる学習として人権教育を考えていきたい。

総合的な学習について ～2002年度年間計画(案)～奈良市立春日中学校 総合的な学習推進委員会

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
学校行事	修学旅行		生徒総会	職場体験	体育大会	ふれあい文化祭	福祉体験	小交流会						
学 期	1 学 期				2 学 期				3 学 期			課 題 ・ 備 考		
一 年	「総合的な学習」全100時間											☆最初にオリエンテーションを行う。		
	「 総合読書 」 35時間(毎日 朝10分)											・総合的な学習とは？		
	「 総 合 」 65時間											・総合的な学習で何を学ぶのか？		
		2週	「総合基礎Ⅰ」18時間					3週	「総合基礎Ⅱ」35時間			☆「総合的な学習の基礎」を学ぶ		
			総合基礎Ⅰ(学級単位、班学習)					福祉	総合基礎Ⅱ(学級単位、班学習)			～福祉をテーマにして～		
			1学期 ①福祉って何？ ②高齢者問題についての課題を見つける ③福祉体験基礎講座					体験	～学び方学習～ 例①施設へのお礼状作成(千紙書き、清書) ②壁新聞作り(まとめ、掲示) ③福祉体験学級発表会(掲示、プレゼン) ④福祉体験学年発表会(プレゼン)			・調べ学習の仕方 ・まとめの仕方 ・発表の仕方		
			2学期 ①福祉体験基礎講座 ②福祉体験講座について A お楽しみ会の準備 C エチケット・マナー講習会 B プレゼントづくり					学習				☆最後に課題発見解決学習を行う。 ※総合的な学習で100時間を取るので選択教科は開設しない。福祉体験を総合としてカウント		
	道徳	今後検討				今後検討				今後検討			☆総合的な学習とのかねあいを今年 度検討する	
	学活	今後検討				今後検討				今後検討			☆総合的な学習とのかねあいを今年 度検討する	
	※ 教科	例 技術:情報基礎(ワープロ・Eメールインターネット) 検討 国語:手紙の書き方 社会:地図の見方、書き方 など											☆総合基礎とのかねあいを今年度検討する	
二 年	「総合的な学習」全85時間											☆2年生の総合的な学習は		
	「 総合読書 」 35時間(毎日 朝10分)											「進路」と「修学旅行」をテーマに		
	「 総 合 」 50時間											絡めていく。		
		「総合進路Ⅰ」10時間			1週	「総合進路Ⅱ」10時間			「総合OKINAWA1」15時間			※職場体験学習を総合として カウントする。		
		総合進路Ⅰ ～進路学習「職場について知ろう」～ 例①職業についての聞き取り③自分の将来の夢 ②職業についての調べ学習④地域フィールドワーク				総合進路Ⅱ ～進路学習「職場体験まとめ」～ 例①お礼状作成 ③体験発表会 ②体験まとめ			総合OKINAWA1(小人数グループ学習) ～課題発見解決学習～ 例 テーマ「新発見！OKINAWA！」 ①反戦平和学習 ③国際 ②文化調べ ④交流 など					
	道徳	今後検討				今後検討				今後検討			☆総合的な学習とのかねあいを今年度検討する。	
	学活	今後検討				今後検討				今後検討			☆総合的な学習とのかねあいを今年度検討する。	
	選択	選択教科 70時間(2講座)前期後期制「課題学習」「補充学習」を用意												
		選択前期 「補充学習」7コース(国社数理英) 計12～13コース 「課題学習」6コース(技家体美音) から2コースを選択					選択後期 「補充学習」7コース(国社数理英) 計12～13コース 「課題学習」6コース(技家体美音) から2コースを選択							
	三 年	「総合的な学習」全95時間											☆3年生の総合的な学習は、	
「 総合読書 」 35時間(毎日 朝10分)											「修学旅行」をテーマに絡めていく。			
「 総 合 」 60時間											☆後半は個人課題または小グループ での			
		「総合OKINAWA」10時間	15時間	「総合OKINAWA」10時間	「総合生き方」25時間					課題を追求する。				
		総合OKINAWA2 例①活動計画 ②		総合OKINAWA2 ①修学旅行まとめ ②学級発表	総合沖縄 ①ものづくり・表現づくり ②課題発見学習 ③文化再発表準備 「学び育てよう平和の心」			総合生き方 テーマ	総合進路					
道徳		今後検討				今後検討				今後検討			☆総合的な学習とのかねあいを今年 度検討する	
学活		今後検討				今後検討				今後検討			☆総合的な学習とのかねあいを今年 度検討する	
選択		選択教科 140時間(4講座)通年制「課題学習」「補充学習」「発展学習」を用意												
		1週間に選択1～選択4の4コマを作る。 各教科が講座を4コマに開設する。1コマには10～12講座を用意し、生徒が興味関心に基づき自由に選べる。 実技教科も補充・発展を考える。												

5. 1年生の取り組みから

(1) 春日中学校区3小学校、校区外4小学校から入学してきた238名の生徒達。彼らは小学校時代にも野外活動を体験している。私たちは、入学したばかりの生徒たちに、仲間づくりと集団生活への適応をねらって、野外活動(宿泊体験)を実施している。学年生徒会を主体に、6クラスの生徒全員が活動することになる。また毎年5月下旬に、3年生が修学旅行中に設定しており、同じく2年生は京都散策グループ活動を行う。

(2) 目的

- ① 宿泊を共にすることによって、知らない生徒同士のふれあいや友情を深める。
- ② 自然に親しみ、集団の規律と連帯感を育成し、日常の生活に役立てる。
- ③ 生徒の活動を中心とし、自主性を養う。

◎ スローガン 「自然を仲間とともに親しもう」

(3) 活動日程

1日目：集合－出発式－入所式－昼食（持参弁当）－ハイキング－夕食（食堂）－入浴－就寝

2日目：朝の集い－朝食(食堂)－野外炊飯・昼食－退所式－帰着解散

一泊二日の野外活動では、活動プログラムに限られる。食事を作る時間を省くために、弁当持参や食堂利用になるのは避けられない。グループの一人一人が自分の役割をいかに責任を持って担当し、他の生徒が意欲的に協力できるかがポイントとなる。

(4) 生徒の係のいろいろ

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 班長・・・活動班をまとめる | 副班長・・・班長を手助けする |
| まき係・・・野外炊飯のかまどの世話 | レク係・・・キャンプファイヤーの進行の手助け |
| シーツ係・・・シーツの受け取り、返還 | 清掃係・・・棟・部屋の清掃責任 |
| 部屋長・・・部屋員をまとめる | |

(5) 事前の指導

- ・ 野外活動準備日程表

平成14年度 野外活動準備日程表											
月	日	曜日	学年	学校行事	担任	野外活動予定	担任・学級活動	実行委員会・しおり	学年・校務学習部	教務バス管理	活動係り
5	3	木	5年	卒業式			学級（野外活動説明） （活動班交代のため）				
5	4	金	5年	体育祭							
5	5	土	5年	体育祭							
5	6	日	5年	体育祭							
5	7	月	5年	全校集会	5年1組	運動：下尾山古 井神社 参拝・参詣 運動：野山活動		学年生徒会	野外活動準備会		
5	8	火	5年		5年2組						
5	9	水	5年		5年3組						
5	10	木	5年	市民生活の日	5年4組		運動（スタンピング）	実行委員会 実行委員の 学年生徒会、シオリ係	学年生徒会	学年生徒会	学年生徒会
5	11	金	5年								
5	12	土	5年	市民生活の日							
5	13	日	5年								
5	14	月	5年	修学旅行 1人1組							
5	15	火	5年		5年5組	運動：野山活動 参拝・参詣 運動：野山活動		実行委員会	学年生徒会		
5	16	水	5年								
5	17	木	5年				学級（野外活動説明） 運動（スタンピング）	実行委員会	学年生徒会		
5	18	金	5年								
5	19	土	5年								
5	20	日	5年								
5	21	月	5年		5年6組	運動：野山活動 参拝・参詣 運動：野山活動	学級（野外活動説明）	実行委員会	学年生徒会	学年生徒会	学年生徒会
5	22	火	5年	（大町保護会）							
5	23	水	5年		5年7組	運動：野山活動 参拝・参詣 運動：野山活動	学級（野外活動説明）	実行委員会	学年生徒会	学年生徒会	学年生徒会
5	24	木	5年	修学旅行							
5	25	金	5年	修学旅行							
5	26	土	5年	修学旅行							
5	27	日	5年	修学旅行							
5	28	月	5年	修学旅行							
5	29	火	5年	修学旅行							
5	30	水	5年	修学旅行							
5	31	木	5年	修学旅行							

(6) 各係への事前指導

- ・5月24日(金) 3限(しおり綴じ・読み合わせ・終わりの会)

12:00～(活動班係会議)

活動班係会議終了後、エールマスター指導

☆まき係指導 (古岡・木村先生)

場所 1-2教室

指導内容

- ・まきを倉庫に取りに行く
- ・ゴミの処理
- ・その他

☆班長指導 (辻田・奥村先生)

場所 1-1教室

指導内容

- ・諸注意
- ・その他

☆レク係指導 A (三間瀬・松実先生)

場所 1-3教室(視聴覚室)

指導内容

- ・キャンプファイヤーの諸注意
- ・座る場所の確認

B (岡本・瀬古口先生)

1-4教室(図書館)

- ・カレーの作り方
- ・翌日のキャンプファイヤー練習会連絡

- ・5月27日(月) 11:40～12:00(宿泊班係会議)

☆部屋長指導 (三間瀬・木村先生)

場所 1-3教室

指導内容

- ・諸注意
- ・部屋長会議の連絡
- ・その他

☆シーツ係指導 (古岡・高島先生)

場所 1-2教室

指導内容

- ・シーツの敷き方
- ・布団のたたみ方

☆清掃点検係指導 (辻田・奥村先生)

場所 1-1教室

指導内容

- ・清掃場所の確認
- ・清掃の仕方
- ・清掃点検の仕方
- ・その他

※キャンプファイヤー練習会(12:10～12:40)

A 視聴覚室(三間瀬・松実先生)

B 図書館(瀬古口・岡本先生)

(1) エールマスター練習

(2) レク係と合同練習

(7) 活動の中から

- ・ハイキング・・・・・・・・・・曾爾高原の自然に親しむ
- ・野外炊飯・・・・・・・・・・なかまと協力することにより、互いの親睦を深める
- ・キャンプファイヤー・・・・・・・・スタンプ等の取り組みを通し、自分たちで考え、行動する力を身につける

(8) 事後指導

- 1) 学活 ・活動中に作成した俳句、絵の完成
・学年生徒会からの反省プリント
- 2) 学年集会（学年生徒会による反省プリントのまとめ：野外活動総括）
- 3) 作成した俳句、絵の展示



(9) 活動を終えて（生徒のアンケートから）

- ・あまり話したことがなかった人と部屋で話ができたりしてよかった。
- ・野外炊事で最初は心配したけど、みんながんばってくれたからうまくつくれたと思う。
- ・ハイキングはしんどかったけど、緑が多くて気持ち良かった。
- ・キャンプファイヤーのとき、スタンプは失敗気味だったけど、みんなでゲームとかしていたら楽しかった。

(10) 反省と課題

- ・1年生は入学して間がないときに宿泊訓練を実施することになる。そのため、なかまを知り合う上では非常によいのであるが、自分たちで活動することに不慣れであるため、教師の指示を待つてしまう受身の行動が見られる。
- ・学校が5日制になったため、事前にいろいろな活動をしたくても他の学校行事（職員会議・生徒委員会活動等）と重なることが多くなり、準備などをするための時間的余裕がなくなっている。
- ・集団行動、生活力の低下が生徒に見られ、次の行動に移るのが遅かったり、自分が今何をしなくてはいけないのかが分かっていないことがあった。

6. 2年生の取り組みから

班別校外学習

(1) スローガン「2年の思い出～Enjoy & Play in Kyoto～」

- (2) 目的
- 1 奈良と共に歴史ある京都の自然、産業、文化遺産などを見学体験し、これからの学習に役立てる。
 - 2 自分たちで目的やコースを計画し、実行していく中で、自主性や協調性を学ぶ。
 - 3 グループ活動を通して、仲間の良さを発見し、これからの学校生活に生かす。
 - 4 実社会に出て、人々とのふれあい等を通して、公衆道徳意識を高める。

(3) 日程（どの班も、全員が共通して行うことは）

近鉄奈良駅集合チェック→→→→丹波橋チェック→→→→近鉄奈良駅解散チェック

チェックポイントA 平安神宮庭園入り口

チェックポイントB 清水寺轟門

※ チェック時は、必ず班員全部がそろっていること。

※ 途中でのチェックは、AかBのどちらかを選ぶ。

(4) 活動の工夫

グループのみんなが力を合わせて活動をしていくわけであるが、ただポイントを通過していくだけでは面白くない。課題を与えることによって、それも予期せぬ形でなされることで、生徒たちはドキドキしながら取り組むことになる。2学期に予定している職場体験や3年での修学旅行にもつながる取り組みとして、グループで協力する活動や一般の人たちと交流することを大きなねらいと考えた。また、より新鮮なおもしろさを持って取り組めるように「課題」の与え方にも工夫をしてみた。

(例)《校外学習いろいろ袋》 在中物は、指令書と指令内容記入用紙、スケッチ用紙である。

指令1 コースの途中で、スケッチする場所を指定しておき、班員全員が15分くらいのスケッチをする。

指令2 コースに沿った内容のクイズやインタビュー等の指令書を袋に入れておき、班全員でその指令内容を達成する。

指令書の内容から

- ・ 二年坂付近にある手作り作品販売店で、職人さんにインタビューしてくる。
- ・ 京都名物「八つ橋」誕生の年と、初めて作った人の名前を調べよ。
- ・ 銀閣寺敷地内にある、国宝や重要文化財を6つ調べよ。等

(5) 生徒の準備から

4/25(木) 校外学習実行委員会(1)

5/1(木) 学活(1)

5/2(木) 校外学習実行委員会(2)

5/7(火) 学活(2)

5/10(金) 学活(3)

5/17(木) 学活(4)

5/27(月) 学活(5) 校外学習実行委員会(3)

5/29(水) 全体事前指導

5/30(木) 校外学習実施

5/31(金) 学活(6) 事後指導；班新聞づくり(2時間)

校外学習実行委員会(4) (総括と振り返りアンケートづくり)

(6) 教師の準備から

生徒たちが活動を興味を持って、みんなで協力できるように雰囲気を盛り上げ、安全に行えるために、コース作りに時間をかけ、当日トラブルのないように万全を期した。

① 校外学習コース作りの仕方

学活を6回設定し、『目的説明、活動班決定、約束事の検討(校外学習実行委員を中心に、クラスで確認していった。)資料を渡して、班ごとにコースの検討、担任及び、担当教諭によるチェックという流れで、コース、内容作りを進めた。

② 2学年校外学習だよりの発行

校外学習の雰囲気を盛り上げ、また、事前学習を進めるために校外学習だよりを発行した。

③ その他の資料

電車運賃と時刻表

京都見学場所入場料

地図

各ポイントについての資料

(7) 校外学習のまとめ(京都班別行動を終えて 班新聞作成の様子)



7. 3 年沖縄修学旅行

(1) ねらい

- ・ 現在にも残る戦争の傷跡、沖縄の現実を知り、平和の大切さ、命の尊さを学ぶ。
- ・ 本土にはない沖縄の風土・文化を体験し、体感して、沖縄の地を身近なものとする。
- ・ 集団行動の中で、目ごろ知らない仲間の良さを知り、絆を深め、大きな思い出を作る。

◎ 生徒スローガン「学び、育てよう平和のこころ」

平和の大切さや命の尊さを、人から教えてもらうのではなく、自分から進んで学んでいこうとすること。沖縄には本土とは違う独特の歴史や文化がある。この修学旅行を通して沖縄と自分とのかかわりを学び、育てていきたい。

(2) 日程

沖縄修学旅行 日程表

[illegible]

1993

【 群馬 】 ホテル日輪群馬グランドキャッスル〒903-8601 群馬県前橋市後援山川町 1-132-1 TEL: 028-886-5454

【 印刷所 】 サンマリーナホテル 〒904-0404 沖縄県国頭郡西納村字基里 66 の 1 TEL: 098-965-2222

(3) 1学期の総合学習 計画

「①平和の大切さ、命の尊さを学ぼう。②沖縄の地を身近に感じよう。③集団行動を通して多くの仲間の良さを知ろう。」のねらいをもとに事前学習から事後の取り組みまで、次のように計画を立て取り組んだ。

各班による沖縄についての学習テーマを決めることから始まり、タクシープランに組み合わせて、現地での体験学習によって問題解決を図る。それぞれの学習テーマは、戦争・平和・自然・歴史・文化など多岐にわたるため、図書館の利用や、インターネットによる調べ学習もとりいれた。また、学年全体を対象にした沖縄平和学習では、映画「月桃の花」を鑑賞し、沖縄戦の様子や当時の人々の平和を願う心を汲み取ることにした。

修学旅行中には映画を見て、イメージしていたことが、真っ暗闇の壕のなかに入り、平和ネットワークの方たちの話を聞いたり、宮城先生の平和講演を聞いて、事前学習以上のものを感じてくれることを期待した。

事後の取り組みについては、沖縄で調べたこと、見たこと、聞いたこと、感じたことをまとめ、壁新聞にてまとめて学級での発表、そして学年全体での発表、さらには、地域との共催によるふれあい文化祭の場で、沖縄修学旅行で学んだものを、「もの作り・表現作り」として発表する。沖縄に住む人たちが暮らしの中で生活文化としていることを、ものをつくり、表現することによって、沖縄を身近に感じ、多様な地域の集まり、人々の集まりが私たちの住む日本であり、地球であることを学ぼうと取り組んだ。

2002年度の総合的な学習計画案

段階	学 習 項 目	内 容
1 学 期	第1次 (1)(2) 4/26	○ 沖縄体験学習 ☆ 沖縄調べ学習Ⅰ ・ 学習テーマ決め ・メンバー決め ・ 体験計画 ・タクシープラン提出
	第2次 (3)(4) 5/2	○ 沖縄体験学習 ☆ 沖縄調べ学習Ⅱ ・ タクシープラン修正・完成 ・ 体験学習計画
	第3次 (5)(6) 5/27	★☆ 沖縄平和学習 ○ 沖縄体験学習確認 ・ 反戦・平和学習(映画の説明含む) ・ 修学旅行のしおりで事前最終確認
	第4次 (7)(8) 5/28	★ 沖縄平和学習 ☆ ・ 月桃の花 映画鑑賞 ・ 終わりの会で感想
	第5次 (9)～(23) 5/30 ～6/1	☆ 沖縄修学旅行 (3日間) 15時間 ・ 沖縄での体験学習 ・ 感じた沖縄をまとめる。 ・ 資料収集
	第5次 (24)(25) 6/7	☆ 沖縄体験学習まとめ ・ タクシー班での壁新聞づくり ・ 平和を入れる
	第6次 (26)(27) 6/14	☆ 沖縄体験学習まとめ ・ タクシー班での壁新聞づくり完成 ・ 平和を入れる

2 学 期	第7次 (28) 6/28	☆沖縄まとめ《学級発表会》	・ 壁新聞をもとに学級にて発表会を行い、沖縄についてまとめる。 ・ 発表の声の大きさやまとめ方など発表の技術も高める。 ・ 沖縄での体験学習で感じたことを発表する。
	第8次 (29)	☆ 総合沖縄	・ 課題発見解決学習 ・ グループ選択表現方法を考える 模型・劇・歌などアンケート実施 ・ テーマ「学び育てよう平和のこころ」
	第9次 (30) (31) 9/6	☆ 総合沖縄	・ 2学期の説明グループ発表 ・ グループ別の準備 ・ ものづくり・表現づくりを中心にする。
	第10次 (32) (33) 9/13 第11次 (34) (35) 9/20	☆ 総合沖縄	・ ふれあい文化祭準備 ・ グループ別の準備 ・ 劇・合奏・合唱・衣装・ものづくり ・ 表現づくり
	第12次 (36) (37) 10/4	☆ 総合沖縄	・ ふれあい文化祭準備 ・ 表現づくり
	第13次 (38) 10/18	☆ 沖縄まとめ	・ ふれあい文化祭準備 ・ 表現づくり

総合生き方 進路		
11/1		自分史新聞づくり 作文など
11/8		
11/5		
11/29		まとめ
12/6		

(2学期後半は予定)

○：学活動的な内容 ☆：総合的な内容 ★：道徳的な内容

(4) 2 学期の総合的な学習 計画

① 総合沖縄

○ **今まで学習してきた総合沖縄を自分たちで表現してみよう！**
劇・音楽・工芸で

ねらい	● 修学旅行や壁新聞づくりで学んだことをいかし、発展する ● なかまとともに表現活動に意欲的、創造的に取り組む ● 自分の表現したことが全体の中で生かされていることを学び、これからの生き方につなげる
取り組み	● 修学旅行のタクシー班をもとに、学年のみんなは、劇・音楽・工芸に分かれて取り組む。 ● それらが、大きな1つのものになって総合沖縄を表現していく。

舞台発表・・・ふれあい文化祭

合唱・合奏・劇などの発表（プレゼンテーションの利用）

展示発表・・・ふれあい文化祭

➢ 自然・文化・平和の3つの内容で発表

舞台発表で使用されたものを展示

➢ 修学旅行壁新聞

☆ **今まで3年間の総合的な学習の取り組みを次の総合生き方につなげていく。**

② 総合 生き方（進路）・・・生きる力を育てる

テーマ 「みんなの夢をみんなで咲かせよう！！」

ねらい	・ 今までの生き方を振り返ることで、これからの生き方を考える。 ・ 卒業後の進路が社会の中で、自分を生かし、生きがいを持って歩めるようにする。
-----	---

取り組み	中学校入学してから、これまでの自分を振り返り、なかまとともにどう歩んできたか、これからどう歩いていくのか、自分史（今までの自分これからの自分）をまとめる。
------	---

(例) ① 友達や先輩・後輩からしてもらってうれしかったこと。感謝したこと。

② 友達や人から感謝されたこと。喜んでもらったこと。

③ 親や教師から指導されて、学んだこと。

④ さまざまの人との出会いから学んだこと。（職場体験・修学旅行など）

⑤ 自分が一番努力したこと。

⑥ 中学卒業後の自分、大人になってからの自分（10年後を思い描く）

⑦ 自己実現していくためには、どう歩いていくのか。

※ 自己実現コーナー（絵やイラスト・詩・手紙など）は3学期に記入する。

※ 文集としてまとめて、なかまの思いを知り、自分の生き方の視野を広める。

タクシープラン (夏テーマ 沖縄の歴史を知る) と平和学習

☆平和の大切さ・命の尊さをまなぼう

☆沖縄の地を身近なものと考えよう。

具体的な活動・学習内容

- タクシープランを考えよう
- 沖縄戦・現在の沖縄について学ぶ。

これまでの学習の感想・反省

- タクシープランを他の人にまかせてしまった。(反省)
- 沖縄戦をプリントで見たり聞いたりしたとき、軽く考えていた。
- 映画を見て、沖縄の人の苦しみとか分かってよかった。
↓ 大変なものだったね。

次回の課題・計画

6/7 と 6/4 (4時間)

1. 平和学習

2. タクシープラン体験記

3. 沖縄の自然と文化

4. クラスの仲間のまと

各自まとめる

↓
タクシープランで各自の書いたものを
はりつけ＆レイアウト。

学習の確認

とてもできた よう できなかった

- | | |
|---|------------|
| ① 学習を最後まで関心を持ってのぞむことができましたか。 | 5 4 ③ 2 1 |
| ② 学習で新しい発見や自分に役立つことができましたか。 | 5 4 3 ② 1 |
| ③ 調べた内容や気づいたことを記録することができましたか
(説明資料プリント・映画視聴) | 5 ④ 3 2 1 |
| ④ 仲間と協力し合って、学習することができましたか。 | 5 ⑤ 3 2 1 |
| ⑤ 次回の学習への新たな意欲がわきましたか。 | 5, 4 ⑤ 2 1 |

3 年 2 組 番 (名前 女子)

「総合的な学習の時間」振り返りカード

学び育てよう平和の心

発表内容の中心

「2-6班タクシープランIN沖縄・沖縄の文化を知って楽しむ」

壁新聞づくりを終えての学習の感想・反省

壁新聞に上手にまとめられた。

(二人でがんばりましたね。)←先生批評

他の班の発表を聞いての感想

みんなすごく上手にまとめられていた。写真や絵があってよかった。

次回の課題・計画 ものづくり・表現づくりをしていきます。

2学期からの沖縄総合学習でどのような内容をさらに発展させて
いきたいですか。また、発表内容をどのように深めたいか具体的に書こう。

沖縄の自然。見ても聞いても楽しいようなもの。

(また考えておいてください。)←先生批評

学習の確認

とてもできた ぶつ できなかった

- ① 学習を最後まで関心を持ってのぞむことができましたか。 ⑤4 3 2 1
- ② 学習で新しい発見や自分に役立つことができましたか。 5④3 2 1
- ③ 調べた内容や気づいたことを記録することができましたか 5 4③2 1
(壁新聞発表を聞いて・)
- ④ 仲間と協力し合って、学習することができましたか。 ⑤4 3 2 1
- ⑤ 次回の学習への新たな意欲がわきましたか。 5④3 2 1

3年2組 番 (名前 女子)

(5) 活動① 普天間中学校との交流「普天間中学校へ手紙を出そう」

沖縄の中学生たちはどのような生活をしているのだろうか。沖縄を身近に考える機会になればと
いうことで、昨年より始まった取り組みである。今回普天間中学校に決めた理由は、昨年とのつな
がりもあり、米軍基地に近いところにある中学校であるからである。まず、最初は地図で、普天間
中学校は普天間基地にどれくらい近いのかから始まり、それぞれ班ごとに質問項目を考えた。

- (例) 1 学校の特色を教えてください。
2 どのような平和学習をしていますか。
3 基地についてどのように思いますか。
4 休み時間は何をしていますか。
5 沖縄でおいしい食べ物を教えてください。
6 奈良についてどのようなことを知っていますか。

(沖縄普天間中学校の生徒さんより届いた手紙)

普天間中学校のみなさんへ	
1. 学校の特色を教えてください。	4. 奈良についてどのような事を知っていますか。
お通普天間中学校は、勉強や部活動、大空の道でたのしい学校です。 生徒一人一人が楽しく学校生活を充実している 校内の美化活動がさかん 必見にきて！ 川学校だよ	奈良の大仏、鹿、セムベ、平城京、奈良の大仏 人間もたべれるの！
2. どのような平和学習をしていますか。	5. 沖縄でおいしい食物を教えてください。
お通沖縄には6月23日に慰霊の日という日があります。 その日は学校の休みではありませんが、静かになるといいます。 戦争の事をいろいろ調べた。祖父や祖母の経験などをきき学校で 戦争について話し合う。	沖縄そば、なごりおそば、ゴーヤチャンプル、トナリシ ☆セムベおいしいよ たべてみて下さい
3. 基地についてどのように思いますか。	6. 休み時間は何をしていますか。
普天間中学校のすぐそばには基地があります。 基地からヘリコプターがとどろく音が運動場からかえります。 かき音がうるさいけど基地の中に入ると沖縄を感じるけれど そこはまるでアメリカってかんじです。 基地は知恵がたまる所と昔からあるから別にいいかもとおもいます。 基地はたのしい、かきとあそびに来るからいいおもいます。	読書、たのしみ、友達としゃべり、 おにごっこなど、ゲームでたのしく すごしてます。
普天間中学校は、普天間基地の近くにありますが、 ターミナルの1つのコースに入っている敷地内、 佐々木美術館の屋上から普天間の様子がよくわかります。	
（中学校の生活は みんなと比べて どうですか。）	
学年だより 3年生 No. 4. 5月10日	

活動② 「生徒代表数名で普天間中学校を訪問してみよう。」

第二日目に、タクシープランのコースに、数グループが、普天間中学校訪問を組み込んだ。引率の教頭先生、学年主任、生徒会メンバーと共に、午前11時に学校前に集合した。普天間中学の校長先生はじめ教頭先生が私たちを快く迎えてくれた。校長室に通され、お互いに挨拶を交わした。二重サッシの窓から基地を眺めたり、校舎内の案内をしていただいたりした。休み時間と重なり、自由に生徒間交流をして約1時間を過ごした。

以下は訪問した生徒の感想文

- ・ タクシープランの途中、普天間中学へ行って学校の中を案内してもらった。体育館の壁は、風が通るようになっていて、校舎の中はクーラーがかかっていた。3年生の女の子たちが来て、いろんなことを話しているうちに友達になれた。3-5 女子
- ・ 普天間中学へ行った。校舎内に入るとクーラーがきいていた。さすが、暑い沖縄の中学校だからと思ったが、本当は基地の騒音を避けるために、いつも窓を閉めているので、クーラーがあるということがわかった。3-6 男子
- ・ 普天間中学校の生徒たちはとても明るかった。3-2 男子

以下は「平和の願い集会」で発表した文（修学旅行後の全校集会にて）

2日目の午前中にタクシー班で分かれて、沖縄の現実を見る機会をつくりました。それで、私たちは、普天間中学へ行きました。普天間中学校は、普天間基地のすぐ隣にあります。普天間基地は宜野湾市のど真ん中にあり、基地を囲むように学校や住宅などがありました。基地では飛行機がいっぱい飛んでいて、校内から外に出てみると、飛行機が「ギューン」という音で、すごく低いところを飛んでいたのも、すごくびっくりしました。そのせいで、授業中はうるさくなって中断してしまうこともあるそうです。そして防音のため、窓は二重窓になっています。

普天間中学校の生徒のみんなは、私達が私服だということで大変おどろいていたようです。普天間中学校にとって「基地の中での生活」があたりまえになっているのと同じく、僕たちにとって「私服」があたりまえになっていますが、どちらも当たり前のことを考える機会にしなければなりません。

ちょうど休憩時間であったので、みんな教室から「ワァー」と出てきて気軽に話をしてくれました。奈良からきたことを言うと「内地」からと言ったのにはおどろきました。「内地」というのは僕たちの住んでいる本土のことを言うそうです。

普天間中学校に行くきっかけはクラスによっては、行きたいという人がいて、最初は普天間中学校の生徒や先生たちが僕たちにどう接してくれるか不安なところもありました。しかし、行ってみるとすごく楽しくて帰る時間になっても、今度は逆に「まだここにいたい」という人がいました。また、普天間中学校に行くと「沖縄の中に入った感じ」がしました。普天間中学校へ行ったことはいろいろ勉強になったし、とてもいい思い出になりました。

これから2学期は「総合」で、沖縄の表現づくりをしていきます。文化祭で学年の発表としていきますので楽しみにしておいてください。

普天間中学での様子



活動③(事前学習)映画「月桃の花」観賞

太平洋戦争を教訓として、二度と戦争を起こさないために、沖縄戦の真相を伝えようと一人の母親が、日本で唯一の地上戦を体験したときのことを、戦後50年後に孫に語り伝えることからこの映画が始まる。その姿を通して、世界平和へのメッセージとして発信する作品になるようにとの願いで作成されたものである。例年沖縄へ出発する前にこの映画を鑑賞しているが、生徒たちはそれぞれの思いで捉え、沖縄での平和学習の一助となっている

(5月28日映画鑑賞実施)

生徒作文：映画「月桃の花」を観て、修学旅行のあとに書いた作文より

- ・ 今回の平和学習の「月桃の花」を見て、僕は戦争により変わってしまった人たちに関心が行きました。また、兵士たちは人めがけて銃を撃ったり、爆弾を投げたり、絶対に平常時にはそこまで出来ないだろうと言うことをやっていたし、その他には動けない人たちに毒を配り殺していくのも、戦争で自国が不利にならないように、上官からすれば当然のことだったのかも知れないが、僕にはほんとにそんなことがあったのかと耳を疑ってしまう。3-6男子
- ・ 映画を見ていて思ったことは、ただ、「怖いなあ。」だったことだけれど、宮城先生の話聞いて、映画では分からないような気持ちや細かいことまで分かった。3-6男子

活動④平和セレモニー

第一日目の平和学習で最初に生徒たちが沖縄の過去の歴史に触れることになる。壕の中での平和学習である。沖縄平和ネットワークの方の説明を真っ暗な壕の中で聞く。最初は漆黒の闇と、足場の悪さに驚きともめずらしさに落ち着かない様子であるが、沖縄平和ネットワークの方の説明を聞いているうちに、映画「月桃の花」で観たことが今現実として目の当たりにあることや、このような暗い所で多く

の人たちが身を寄せ合って生活をし、戦争の惨さと戦っていたことがイメージとして浮かんでくる。戦争を知らない世代が壕に入ることで感性が揺さぶられて戦場認識につながっていく。貴重な体験である。私たちの学校は生徒数の都合上、糸数壕と轟の壕とガラビ壕の3箇所に分かれて学習をする。どちらの壕でも同じように生徒たちによる平和セレモニーが行われる。

以下は平和セレモニーで、生徒代表によって読まれた文です。

私たちは「学び、育てよう平和のこころ」というスローガンを持って奈良から来ました。私たちは、修学旅行に来る前に、「月桃の花」という映画を鑑賞したり、資料を見たりして沖縄のことを少しでも多く知ろうと努力してきました。今日、実際に壕に入ることや沖縄平和ネットワークの方のお話を聞くことで、改めて学ぶことが多くありました。沖縄戦中、この壕の中で笑うこともできず話すこともできない日々。

私たちでは当たり前のことが当たり前じゃなかったことが多くありました。今の私たちには、そのときのつらさ、悲しさをわかることはできないけれど、ここで、学び感じたことを一生忘れることなく、これからの私たちの生き方に結び付けていきたいと思います。また、他の人たちにも伝えていきたいと思います。

今日の夜、宮城先生のお話を聞きます。実際に体験された戦争のことをお話していただきます。壕の中でのこと、宮城先生のお話を心から感じ、学ぶことによって、平和へとつなげていきたいと思います。

ひとつしかない命を大切に、その尊さを知って、二度と戦争を起こさない世界にしていきたいです。

2002年5月30日

奈良市立春日中学校三年生一同

平和学習（壕の見学、ひめゆり資料館、平和祈念公園、タクシープランによる班別平和学習など）を終えて、生徒の思いを表した作文

・ ひめゆり資料館へ行った。ひめゆり学徒隊がいた壕を見て、「どうやってこの壕の中へ入るのかなあ。」と思った。資料館の中の写真はまだ私とあまり年が違わない子が爆弾で死んだとか、銃で撃たれたとかで死んでいました。写真のない子もいました。あの資料館があるから、今、私たちは戦争のことを学べるけれど、本当にあの本（資料）とか見てる人が、だんだん人じゃなくなるって言うか、人間の感情を壊していくみたいな感じで、戦争とはだれかが悪いんじゃないくて、一度失敗したことはもうしてはいけないと思いました。戦争があったということを絶対に風化してはいけないと思います。

今、普通に生きているこのあたりまえの世界が決して壊れないように、一人一人が世界の平和を守っていかないといけないと思いました。3-5女子

・ 壕の中は暗いし、すべるし、あんなところで生活できひんやろって、思ってたけど戦争中はそんなこと言ってる場合ではなく、生きるか死ぬかのときだったということが改めて分かった。3-6女

・ 壕の中は真っ暗でこの中で生活するなんて無理だと思った。それに手足を普通に運んだり、ウジ虫を取ったりするのはとても大変なことだ。自分では絶対と言うほど出来ないことを、戦時中の人たちはやっていたんだなあと思う。患者さんも悲惨すぎる。何もかも奪う戦争。人間が人間でなくなる戦争こんなことは二度とくり返してはいけない。3-6女子

- ・ 平和祈念公園での平和の礎を見たときも、戦争の恐ろしさを実感させられる1つだなあと感じました。戦争では、何の意味もなく人が死んでしまう悲しいものだものすごく思った。ホテルでの講演もものすごく実感できました。ただ戦争をしてはいけないと何気なしに言うより、どうして戦争をしてはいけないのかと考えていくべきだと思いました。3-5女子
- ・ 「命どう宝」この言葉は、沖縄へ行って3日間決して忘れなかった言葉です。宮城先生の話聞いて、この言葉の意味がよりいっそう深まりました。戦争の話や壕の中での出来事は今でも心にはっきりと覚えています。3-3女子

活動⑤タクシープラン

タクシープランを取り入れた理由；生徒達が班で行動をして、班ごとにそれぞれの調べたいことや体験したいことができる。移動は運転手さんに任せられるので、時間に無駄がなく短時間に行動できる。また、車中では運転手さんに説明を聞くことができ、沖縄が身近に感じられるメリットがある。生徒達のタクシープランの留意点としては、条件1として午前中に沖縄の現実を知るために、提示した6箇所の施設より、コースにいれる場所を1箇所以上選ぶこと。条件2として午後から恩納村での体験学習を90分入れることとした。沖縄をより身近に感じ取るためである。

日程 第2日目午前8時30分ホテル前にてタクシーに乗車→→→（途中食事をすませて）→→→午後3時ホテルへ帰着

条件1 午前中に、沖縄の現実を知るために1箇所以上入れる場所として

- ① 佐喜真美術館 ② 嘉数高台 ③ 安保の丘 ④ 読谷村役場の最上階 ⑤ 楚辺通信所：象のオリ
⑥ トリイ通信施設

条件2 午後から恩納村での体験学習として次の中から、体験学習を90分入れる。

- ① サトウキビ収穫作業及びしぼり体験 ② べにいも収穫作業及びチップスづくり ③ サンニン（月桃）の葉摘みとムーチャー菓子づくり ④ 沖縄産パインのジャムづくり ⑤ 貝細工

タクシープランから生徒作文の紹介

- ・ タクシープランで、安保の丘へ行った。運転手さんはアメリカ軍基地にとまっている飛行機の名前を全部知っていた。それがどのような役目の飛行機かも知っていた。そして、運転手さんはこう言った。「飛行機の音を毎日聞いていたら、覚えたくなくても自然に覚える。」と、そんなに音がうるさいんだなあ、と思った。3-6男子
- ・ タクシーの運転手さんの話によると、沖縄の家々にあるシーサーは魔よけの獅子で、口を開けてる方が幸せをつかみ、口を閉じてる方がその幸せをはなさないと言う意味もあるらしい。3-3男子
- ・ 僕は沖縄について全然知らなかったもので、タクシープランを作るのもすごく迷いながら決めていました。しかし運転手さんは、一つ一つ丁寧に説明してくれました。沖縄の景色は思った以上にきれいでした。運転手さんは、昼食の場所などいろいろ教えてくれました。僕は初めて沖縄ソーキそばを食べました。3-7男子

- ・ 海がすごくきれいでした。はじめて見る魚もいっぱいいた。家も変わってるし、シーサーがのっている家が多かった。道端にハイビスカスも咲いてて日本じゃないみたいだった。国際通りでは、沖縄限定品が多かった。3-7男子
- ・ シーサーもかわいいのがたくさんあった。海が何よりもきれいだった。でも、サンゴの白化現象がちょっと心配。3-7男子
- ・ 体験学習で、パイナップルジャムを作りました。みんなで協力して、パイナップルを小さく切ったり、煮込んだりと、作り方を教えてもらった。先生と一緒にがんばって作りました。とても美味しく出来上がりました。3-2女子
- ・ 生のパイナップルをはじめて切った。ジャムがあんな風に出来るなんて驚いた。思ったよりは美味しかった。3-2女子

(6) 3年沖縄修学旅行を終えて

以下は「平和の願い集会」での生徒の文（修学旅行後の全校集会にて）

私たちは、5月31日から6月1日にかけて平和学習と総合学習を目的とした「学び育てよう平和のこころ」というスローガンをかけ沖縄へ修学旅行に行きました。

飛行機から降りた瞬間、ムッとした空気が流れ込んできてとてもむし暑く、「さすが沖縄！」と思いました。亜熱帯地域の植物もたくさんあり、日本の国の一つなのにこんなに違うんだと感じました。そして友達もたくさん増えました。日ごろ話をしない人と親しくなったり、沖縄の現地の人とも仲良くなれました。

何より平和の大切さをここから学ぶことができました。一日目は壕の中に入りました。壕の中は滑りやすく、懐中電灯を消すとすぐ隣にいる人も見えないくらい真っ暗でした。この中でたくさんに人がなくなったんだと思うと怖く悲しくなりました。その日の夜、宮城先生のお話を聞くことができました。宮城先生のお話は、今も深く私たちの心の中に残っています。16歳という私たちとあまり変わらない年で、薬もないのに負傷した日本兵の看護をしたり、手榴弾で自決したりと私たちの生活では考えられないことばかりでした。教科書で読むよりも学校の先生のお話を聞くよりも宮城先生のお話は、「アッ」と心に響くものがありました。宮城先生のお話を私たちは忘れません。忘れてはいけないと思います。

いつかまた同じ過ちを繰り返さないために私たちは、私たちのこれからに繋げ、次の世代の人たちに伝えていきたいです。



8. 終わりに、課題、考察

総合学習としての成果や課題

事前学習での課題や疑問が旅行中に解消され、また旅行後には反省やまとめとして、事後の取り組みにつなげられただろうか。発表会の形式や内容が十分に生徒自身のかかわりとして反映されただろうか。そして、平和学習で学んだことや班別学習（タクシープラン、国際通りでの班別自由行動）のねらいとするところが身についただろうか。総合的な学習の一環として修学旅行に取り組み、そのつどの指導や話し合いにおける進み具合の調整を繰り返し、生徒たちとともに大きな仕事をやってきた感じがする。生徒たちの反省やアンケート、そして事後の発表会を見ながら、今年取り組みが、生徒たちの沖縄学習がより深まり、反戦・平和の願いがたかまり、沖縄の自然や文化についてより身近に感じられたのではないかととらえている。学校全体として、3年沖縄修学旅行を、人権学習を基盤に据えた総合学習の取り組みの一つとしてとして、さらに進めていきたいと思う。

修学旅行で何を学ぶか、何を学びたいか、最近では旅行先での伝統行事・文化を体験したり、その土地での催物を体験することが多い。その土地でしか学べない貴重な体験もあるが、ゆとりの中で多くの人々とふれあい、自分がその活動にかかわることにより意見や考えが生まれ、グループや全体の中でよりよく自分を生かせる技術（生きる力）も身に付けることが出来るからだ。

今回の旅行を通して、反省すべきことも多くあった。飛行機の中、ホテルにおけるマナーなど、社会人として守るべきことが不十分であったり、また、本校では普段も私服のため、壕に入る時などTPOに応じた服装についても事前指導に力をいれた。自分さえ良ければとか、何とかできるだろうという安易な考えもないとはいえない。自分がしてほしいことは他人も望んでいることである。個人個人が決まりを守ってこそ集団活動が評価されるのである。

インターネットの活用

今回の修学旅行において、学校のホームページを利用して、毎日現地からの生の修学旅行速報を掲載してはどうかと言う案が出された。しかし、①旅行中にパソコン入力する時間がない。②時間が捻出できても、どれくらい多くの保護者に見てもらえるのだろうか等。の理由により今回は見送りとなった。むしろ修学旅行後に総合学習としての取り組みとしてホームページの完成に時間をかける方が良いと考え、今回は断念した。全国各地の中・高等学校において修学旅行紹介インターネットホームページを拝見すると、それぞれの学校がいろいろなアイデアを出し、ホームページを作成しておられることがわかる。十分に参考にさせていただき、役立てたい。

春日中学校ホームページアドレス

<http://www.naracity.ed.jp/kasuga-j>